

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

※生成 A I による要約を行なっています。

令和 7 年 1 月 30 日 坂本学童放課後クラブ 法人化プロジェクト

(司会)

本日は「市民と市長との対話集会」ということで、市長や職員、歴代会長の皆さまに集ってもらい、貴重な意見をいただきたいと考えている。20 時半までの時間制限があるため、協力をお願いしたい。

(市長)

市長就任 1 年を迎えた。昨年は、市民の声を市政に反映させる目的で、対話集会を 30 回開催した。今年初の対話集会となるが、限られた時間の中でテーマについて議論し、その改善案などを市政に生かしたい。

(司会)

理事長から挨拶をお願いします。

(理事長)

中津川市における学童の運営主体は、ほとんどが保護者会であり、保護者の負担が大きい。坂本学童は保護者会に代わって運営理事会が運営しているが、職員の雇用などの問題点があり、質の高い保育を目指すために法人化が必要だと考えている。

(司会)

現場の声として、保育や運営に関する課題を伺いたい。

(参加者)

学童に多くの子どもが集まる現状で安定した運営を行うには、相談相手や支える理事会の存在が必要である。年々変わる保護者会体制では対応が難しい。

(参加者)

運営方針が毎年変わり、職員や子どもたちにとって不安定な状況である。信頼できる体制と運営が重要だと思う。

(司会)

現状を踏まえ、市長の感想を伺いたい。

(市長)

市として法人化を進めることは重要であると考え。他の学童とのバランスが必要であるため、法人化に向けた地域全体での一致団結が理想と考える。

(参加者)

市の担当課も坂本地区にある 3 つの学童が同じ方向を向いていないといけないうが、学童間での関係性があまり良くないので連携が難しい。保護者間での対話の場を設けるためには、市の支援も必要である。

(市長)

対話の場を設けるために市が支援することはできる。保護者間の積極的対話と協力が重要であるため、行政主導ではなく、現場の意見を重視したボトムアップの姿勢が理想的と考える。法人化のメリットは多いと考えるが、現場の現状と課題を整理した上で具体的な方法を探る必要がある。

(司会)

法人化が将来の課題解決につながると信じているが、今は坂本地区の3つの学童の足並みが揃っていない。法人化に向けて、3学童の保護者会による議論の場をつくる必要がある。

(参加者)

長年の法人化への取り組みは、学童の持続的発展にとって不可欠であると考えます。

(市長)

他地域の成功事例を参照し、中津川市全体の学童の法人化が未来の理想形ではないか。

(参加者)

運営の安定と保護者の負担軽減のため、法人化計画を推進することが必要である。

(市長)

法人化は中津川市全体に広がるべきと考えるが、地域性や現状を踏まえた対応が重要である。

(司会)

大変有意義な議論の場となった。市長も参加いただきありがとうございました。

(市長)

学童の運営における課題と法人化の意義について認識を深めた。対話を継続しながら学童の未来に向けた良い例を作りたい。